

南十字星

鎮魂 50年記念誌

マーシャル方面遺族会

目 次

50年祭 祭文……………	3
南十字星を仰いで 会長 佐藤宗丕……	4
篤志会員に推されたわが思い出 篤志会員 松平永芳……	5
宣戦の詔書……………	6
終戦の詔書……………	7
南洋群島概図……………	8
1 写真記録……………	9～28
2 マーシャル方面戦域の状況……………	29～39
3 本会のあゆみ……………	40～56
4 年 表……………	57～66
マーシャル方面遺族会会則……………	67
編集後記……………	68

部隊名と略語

略 語	部 隊 名	略 語	部 隊 名
6 根	第6根拠地隊	14 魚 調	第14魚雷調整班
6 根 司	第6根拠地隊司令部	横 施	横須賀海軍施設部
〇〇 警	第〇〇警備隊	横 需	横須賀海軍軍需部
6 通	第6通信隊	横 廠	横須賀海軍工廠
6 潜 基	第6潜水艦基地隊	運 本	運輸本部
4 需	第4海軍軍需部	南洋支隊	南洋第一支隊（四国が主力）
4 経	第4海軍経理部	南 洋 憲	南洋憲兵隊第四憲兵分隊
4 気 象	第4気象隊		
4 施	第4海軍施設部	〈以下海上機動第一旅団（元関東軍）〉	
4 工 作	第4海軍工作部	駆 3130	司令部
4 艦	第4艦隊	駆 3131	第1大隊（元独立守備隊11大隊）
4 艦 司	第4艦隊司令部	駆 3132	第2大隊（元独立守備隊15大隊）
22 航 戦	第22航空戦隊	駆 3133	第3大隊（元独立守備隊16大隊）
24 航 戦	第24航空戦隊	駆 3134	機関砲隊
〇〇〇空	第〇〇〇海軍航空隊	駆 3135	戦車隊
〇〇駆潜	第〇〇駆潜隊	駆 3136	工兵隊
〇〇掃	第〇〇掃海隊	駆 3137	通信隊
〇〇駆特	第〇〇駆潜特務艇	駆 3138	衛生隊
13 郵 所	第13海軍軍用郵便所	駆 3139	輸送隊

島の名 新旧対照

旧	新
マーシャル群島	マーシャル諸島
ブ ラ ウ ン	エニウエトック (Eniwetok)
ク エ ゼ リ ン	クワジェリン (Kwajalein)
ル オ ッ ト	ロイ・ナムル (Roi-Namur)
エ ビ ゼ	エバイまたはイバイ (Ebeye)
ヤ ル ー ト	ジャルートまたはジャリット (Jaluit)
メ ジ ユ ロ	マジユロ (Majuro)
ウ オ ッ チ エ	ウオツジエ (Wotje)
ミ	ミリ (Mili)

旧	新
カロリン諸島	
ウ ル シ ー	ユリティ (Ulthi)
ト ラ ッ ク	チュウツク (Chuuk)
ポ ナ ベ	ポーンベイ (Pohnpei)
ク サ イ	コスラエ (Kosrae)
ギルバート諸島	
ビッグマキン	ブタリタリ (Butaritari)
リトルマキン	マキン (Makin)

祭文

本日 茲にマニラ方面遺族會
五十年祭を齎行すに當り 謹ん
て大東亞戦争中 マニラ群島
ギルバト諸島及びその周邊海域で
散華せられた三萬餘柱の神靈
に申上げ奉る

皆様方は 祖國防術の宗高なる
任務を擔はれ 味方の軍艦一隻
飛行機一機を支援もなし 南溟の孤
島において 我に幾千倍の戦力を有
する強敵を迎討せ玉碎され 或は一
切の補給の途絶した 颯海の孤島を
本土の戦備の整う日を死守せんと
惡戦苦闘の末 尊い御命を以て國に
捧げられました

荒廢した國土に立たれた私共
遺族は 一般國民以上の苦難の途
を餘儀がゆえに歩きたが 皆様方
の御遺志が家族の者と國家の
安寧にあられたるに思ひを致し
堪へ難きを堪へ 忍び難きを忍び
つ 幾多の困難を乗り越えて
今日に到ります

神靈の御加護は尊く 今如わが
國は世界の歴史に未だ嘗て例を
見ざる平和と自由と繁榮の豐盛
に浴して存ります

國際社會に招きよるも 樞要な地
位に上られたに到ります 是は
偏に祖國と同抱の平素を念し
ながら 散華せられた皆様方の尊い
御獻身の賜であります

先陰失の如く申します かの日
から既に五十年の歲月が流れま
した

悲痛な歴史も 淡染に風化せし
やうな風潮も見受けられ 時勢と
はなれましたが 私共は朽たふれ
なれし 目的皆様方の隱密を思ひ
新たな想ひを馳せて存ります

私共は皆様方の清き眼を直き
中心を承継して 祖國發光に世界の
平和と繁榮に盡すため 今後とも
不懈の努力を致すことをお誓ひ
申上げ奉る

何卒私共の先を御監視賜
はり 併せて神靈の御速に安んじ
神鎮りたまふことを心よりお祈り
申上げ奉る文と致し奉る

平成六年三月二十七日
マニラ方面遺族會
會長 佐藤宗丞

南 十 字 星 を 仰 い で

会 長 佐 藤 宗 丕

悲痛な知らせを受けてから早くも50年の歳月が流れ去りました。全国の同じ立場の遺族が、戦死者の御霊をお慰めすることのみを目的としてこの会を結成したのは、昭和38年6月でした。以来30年余、お互いに慰め合い励まし合って今日に至りました。幸いに高邁な先達の御教導と、会員、会友の熱意、関係諸官庁や友好団体の御支援に支えられて、予期以上の成果を挙げることができました。

本会設立間もない39年2月6日には約800名の会員、賛助者に参集頂き、20年祭を厳粛、盛大に執り行いました。

42年には、現地事情の調査・遺骨収集・慰霊のため、役員2名を半年間もの長期にわたって現地に派遣し、十分に目的を果し、その時の人間関係は今尚続いております。

43年には、米駐屯軍の御好意によって、軍事機密の島クエゼリン島に本会関係全域を象徴する忠魂慰霊碑を建てる事ができました。

50年8月には、初めてクエゼリン島に慰霊目的の入域が許可され、代表遺族36名は玉碎31年目に感激の墓参をいたしました。

今年、玉碎50年の節目の年を迎え、3月27日に会員、会友303名は50年祭を厳粛に執り行い、8月の第11回現地慰霊には過去最多の70名が参加し、会発足以来の現地慰霊参加者は延270名になりました。

私どもはこのように慰霊一筋に精進して参りましたが、近頃気にかかることが起りました。

聞くとところによりますと、いま、政界では終戦50年にあたる平成

7年に、大東亜戦争はわが国の侵略戦争であったとして、諸外国に対して反省と謝罪を表明する国会決議を行おうとしているそうあります。

終戦50年にあたって何をおいても先ずやって頂きたいのは、日本にとって大東亜戦争とは何であったのか、何故国家と民族の命運を賭けて戦わなければならなかったか、の究明であり、さらに、多くの問題を内蔵している極東国際軍事裁判そのものの厳正な検証であります。これらの労を全く省いて何を根拠に議案を審議しようとするのでしょうか。また、立法機関である国会が権限外の歴史判断を下すことの不当性も多くの方から指摘されています。

靖國の英霊は、有史以来の国難に際会して、わが国の自存自衛のため、決然として祖国防衛の聖戦に尊い一命を捧げられました。私共は今、歴史に例を見ない平和と繁栄の恩恵に浴しておりますが、是は偏に靖國の英霊の尊い御献身の礎の上に築かれたものです。

勝者の一方的な論理に盲従して、祖国に犯罪国家の烙印を押すような行為を、靖國の英霊はどのように御照覧なされるのでしょうか。

国会議員の先生方には、日本人としての良識を以て、民族の栄光のため善処して頂きたいものであります。

50年の昔、夜毎に南十字星を仰ぎ、祖国の安泰と、いとしい家族の幸せを念じたであろう英霊に思いを馳せ、このささやかな記念誌を後世に遺し、鎮魂の資といたします。

篤志會員に推されたわが思い出

篤志會員 松平永芳

人との縁^{ゆかり}、人それぞれの宿命ぐらい数奇な足跡を辿るものはない。

明治24年に誕生した亡母井上幸子は、その前後に御降誕の 明治天皇の第7皇女周宮房子内親王（後の北白川宮成久王妃）、第8皇女富美宮允子内親王（後の朝香宮鳩彦王妃）方の御婚前、明治末期に御遊び相手として屢々参殿、両内親王の御好誼を得た。そのようなことで、私が初めて北白川宮永久王殿下（靖國御祭神）や朝香宮正彦王殿下（臣籍降下されて音羽侯爵家御創立、靖國御祭神）等の諸殿下方と親しくして戴くようになったのは中学校時代からで、永久王殿下には馬術で御世話になり、他の殿下方とは山形縣五色温泉に於ける山小屋でのスキー練習生活に於てであつた。

やがて永久王殿下は御任官、颯爽たる陸軍青年將校として御活躍、正彦王殿下と私は、開戦前夜の月々火水木金々の艦隊勤務を共にする青年士官として時折御目にかゝっていた。

昭和13、14年頃、侯が中尉から大尉に進まれ航空母艦「赤城」分隊長の折であつたらうか、横須賀海軍工廠の大船渠^{ドック}で修理中の「赤城」から、これ亦小船渠入りの我が乗組駆逐艦「隴」^{おほろ}にダベリ（おしやべり）に来られて艦長以下を驚かされたのを極く先頃の事のように思い出す。極めて気楽に行動なさる方であつた。

我が国一敗地に塗れた後、私は佛領印度支那（現ベトナム）に滞留のまゝ、南方各地に散在せる我が陸海將兵復員輸送の為の艦船に対する補給任務を命ぜられ、完了帰京したのが21年8月で、音羽侯の

玉碎御戦死の件を初めて聞かされて驚き入り、且つ悲しんだのであつたが、これも亦、つい昨日の出来事のように思われてならない。

戦後、考える所あつて陸上自衛隊に身を投じた私は、圖らずも防衛庁戦史室の戦争史・資料を集収、整理、保管する責任者に任ぜられた。そこで公務の餘暇を利用して皇室に近い海軍軍人の戦・公死者の記録編纂を決意し、昭和35年頃から準備を始め、日曜、休日等は殆んど御遺族訪問に明け暮れし、38年には先づ調べ上げた音羽侯の事歴を出版賛同者へ対する内容見本として印刷配布した。當時既に出版され始めていたアメリカ各軍、海兵隊等の公刊戦史が入手出来たので、戦闘の寫真、攻防陣地の付図等の入つた、従来我が方では知り得なかつた相當詳細な内容見本の冊子を作成することが出来た。

これを偶々クェゼリン島戦歿者遺族會長林茂清殿等御関係各位に供覧したのが御縁となり、篤志會員の一人に加えて戴いてから30有餘年、この度改めて「環礁」創刊号の巻頭に、朝香鳩彦名譽會長が20年祭の祭文を奏上して居られる御姿を拜して感慨無量、更に又、その後私が13年餘に亘つて靖國神社宮司の重責を拜命し、靖國の神々に日夜直接御奉仕させて戴けたことを、不思議な御縁、宿命と感慨盡きる事なく、御需に応じて筆を執らせて戴いた。

以上

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐ル
大日本帝國天皇ハ昭ニ忠誠勇武ナル汝有
眾ニ示ス

朕茲ニ米國及英國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ陸
海將兵ハ全力ヲ奮テ交戰ニ從事シ朕カ百
僚有司ハ勤精職務ヲ奉行シ朕カ眾庶ハ各
其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總力ヲ擧ケテ
征戰ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナカラムコト
ヲ期セヨ

抑、東亞ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ

宣戰の詔書

寄與スル不顯ナル皇祖考丕承ナル皇考、
作述セル遠猷ニシテ朕カ拳々措カサル所而
シテ列國トノ交誼ヲ篤クシ萬邦共榮、
樂ヲ偕ニスルハ之亦帝國カ常ニ國交ノ要
義ト爲ス所ナリ今ヤ不幸ニシテ米英兩
國ト齟齬ヲ開クニ至ル洵ニ己ムヲ得サルモ、
アリ皇朕カ志ナラハヤ中華民國政府裏
帝國ノ真意ヲ解セズ濫ニ事ヲ構ヘテ東
亞ノ平和ヲ攪亂シ遂ニ帝國ヲシテ干戈ヲ執
ルニ至ラシメ茲ニ四年有餘ヲ經タリ幸ニ國

忠誠勇武ニ信倚シ祖宗ノ遺業ヲ恢弘シ
速ニ禍根ヲ芟除シテ東亞永遠ノ平和ヲ
確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ
期ス

裕仁



民政府更新スルアリ帝國ハ之ト善隣ノ誼
ヲ結ヒ相提携スルニ至レルモ重慶ニ殘存ス政
權ハ米英、庇蔭ヲ恃ミテ兄弟尚未タ牆相
闕クフ悛メス米英兩國ハ殘存政權ヲ支撐シ
テ東亞ノ禍亂ヲ助長シ平和ノ美名ニ匿レテ
東洋制覇ノ非望ヲ逞ケセトス刺（與國ヲ誘
ヒ帝國ノ周邊ニ於テ武備ヲ増強シテ我ニ挑戰
シ更ニ帝國ノ平和ノ通商ニ有ラエル妨害ニ與
テ遂ニ經濟斷交ヲ敢テシ帝國ノ生存ニ重大
ナル脅威ヲ加フ朕ハ政府ヲシテ事態ヲ平和、

昭和十六年十二月八日

内閣總理大臣
文部大臣
國務大臣
陸軍大臣
厚生大臣
司法大臣
海軍大臣
外務大臣
逓信大臣

東條英機
板垣征四郎
小磯國昭
杉山元
寺島健一
松岡洋右
廣田弘毅
木村重
石原莞爾
坂井三郎
坂垣征四郎
石原莞爾
坂井三郎
坂垣征四郎

程ニ回復セシムトシ隱忍久シキニ稱リタルモ彼
毫モ交讓ノ精神ナク徒ニ時局ノ解決ヲ遷
延シメテ此ノ間却ツテ益々經濟上軍事上ノ
脅威ヲ増大シ以テ我ヲ屈從セシムトス斯
如クニシテ推移セムカ東亞安定ニ關シ帝國
積年ノ努力ハ悉ク水泡ニ歸シ帝國ノ存立亦
正ニ危殆ニ瀕セリ事既ニ此ニ至ル帝國ハ今
ヤ自存自衛ノ爲蹶然起ツテ一切ノ障礙ヲ
破碎スル、外ナキナリ
皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ朕ハ汝有眾、

大藏大臣 賀屋興宣
商工大臣 岸信介
鐵道大臣 西嘉明

聯深ク世界ノ大勢ト帝國ノ現狀トニ鑑ニ非
 常ノ措置ヲ以テ時局ヲ收拾セムト欲ニ茲ニ忠
 良ナル爾臣民ニ告ク
 朕ハ帝國政府ヲシテ米英支蘇四國ニ對シ
 共ノ共同宣言ヲ交諾スル旨通告セシメタ
 リ
 抑帝國臣民ノ康寧ヲ圖リ萬邦共榮ノ樂
 ヲ偕ニスルハ皇祖玄宗ノ遺範ニシテ朕ノ奉
 措カサル所最良ニ米英二國ニ宣戰セバ所以
 亦實ニ帝國ノ自存ト東亞ノ安定トヲ庶幾

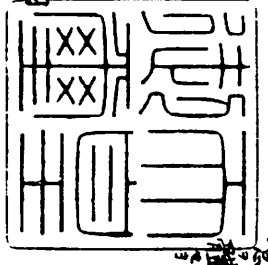
終戰の詔書

是ニ出テ他國ノ主權ヲ排シ領土ヲ侵ス如キ
 ハ固ク朕ノ志ニシテ然ルニ交戰已ニ四載
 ヲ閱シ朕ノ陸海將兵ノ奮戰リ百俸有司
 ノ勵精朕力ニ慮無虞ノ奉公各盡善ヲ盡思
 二拘テ大戰局ハ今ニ轉機ニ至リ大勢亦戦ニ利
 二知之敵ハ新ニ破産ニ墜ル爆彈ヲ御用ニ慘害
 ノ及テ所冀ハ測ルカニ至ラズ而シテ尚且戰
 二繼續セバ終ニ我ノ民族ノ滅亡ヲ招来スル
 ニナラズ延テ人類ノ文明ヲ破却スニ斯ル
 如何ハ朕何ヲ以テ力極矣ノ亦子ヲ保シ皇祖

皇室ノ神靈ヲ謝セムヤ是レ朕カ帝國
 政府ヲシテ共同宣言ニ應ジシニ至ル所
 以ナリ
 朕ハ帝國ト共ニ終始東亞ノ解放ニ協力セ
 諸盟邦ニ對シ遺憾ノ意ヲ表セサルヲ得
 大帝國臣民ニシテ戰陣ニ死ニ職域ニ殉ジ非
 命ニ斃レル者及共ノ遺族ニ想ヲ致セ五
 内爲ニ製スル者且戰傷ヲ負ヒ災禍ヲ蒙リ家業
 ヲ失ヒタル者ノ厚生ニ至リハ朕ノ深ク軫念
 ル所ナリ惟テ今後帝國ノ受クキ苦難

不滅ノ信ヲ任重クシテ道遠ク念總力ヲ將來ニ建
 設ニ傾テ道義ヲ篤ク志操ヲ堅ク誓フニ國體
 ノ精華ヲ發揚シ世界進進後ヲムリ期ニ爾臣
 民共克朕力盡善

裕仁

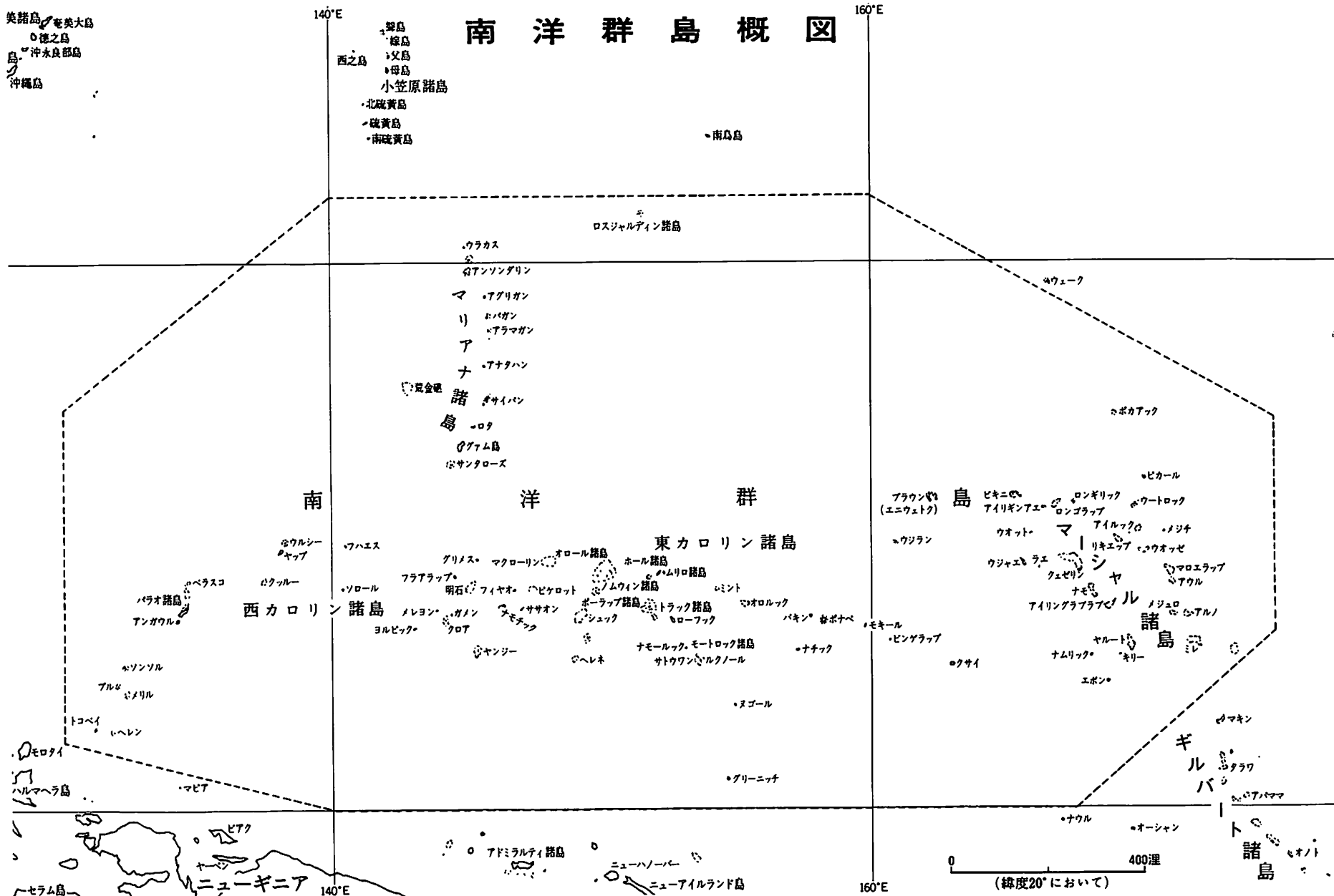


昭和二十年八月十四日
 内閣總理大臣 齋藤 隆夫 大納言
 海軍大臣 米内 光政
 司法大臣 松本 正光
 陸軍大臣 廣田 弘毅
 軍需大臣 豊田 四郎
 國務大臣 櫻井 五郎
 國務大臣 下村 宏

固ク尋常ニシテ爾臣民ノ哀情ヲ聯事
 ノ之ヲ知ル然レトモ朕ノ時運ノ趨ク所堪
 難キヲ堪ヘ忍ビ難キヲ忍ビ以テ萬世ノ爲
 太平ヲ開カント欲ス
 朕ハ茲ニ國體ヲ維持シ得テ忠良ナル爾臣
 民ノ赤誠ニ信倚シ帝ニ爾臣民ト共ニ在リ
 若シ夫レ情ヲ激スル所濫ニ事端ヲ流リ或
 ハ同胞排擠スル時局ヲ亂リ爲テ大道ヲ誤
 リ信義ヲ世界ニ失フ如キ朕最ニ之ヲ戒
 ム宜ク舉國一家子孫相傳ニ確ク神州

大藏大臣 廣瀬 豊作
 文部大臣 太田 龍雄
 農商大臣 石星 亨
 内務大臣 本庄 繁
 外務大臣 小磯 善郎
 運輸大臣 小安 井藤 英治
 小島 登

南洋群島概図



1 写真記録



九段坂上の燈明台高燈籠
明治4年建造、平成2年修復復元



靖國神社社号標（吉田晩稼揮毫）と狛犬



靖國神社拜殿



靖國神社御本殿

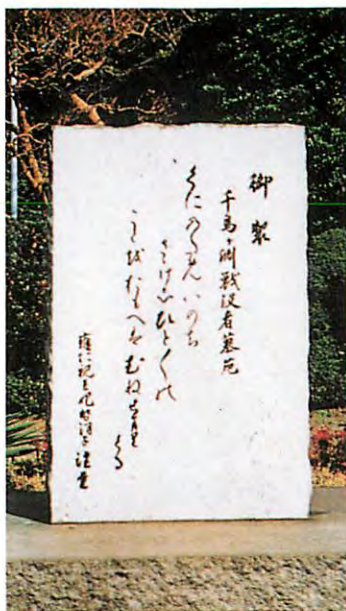
昭和天皇御製

千鳥ヶ淵戦没者墓苑

くのためにのちささげし ひとびとの

ことをおもへば むねせまりくる

雍仁親王妃勢津子謹書



御製の碑
御揮毫は秩父宮妃殿下
昭和35年3月28日除幕



千鳥ヶ淵戦没者墓苑 菊薫る墓前



千鳥ヶ淵戦没者墓苑 六角堂



東太平洋戦没者の碑 昭和59年3月16日 日本政府建立（マジュロ島）

天皇陛下のお言葉

(平成六年八月十五日)

本日、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々やその遺族を思い、つきることのない悲しみを覚えま

す。
顧みれば、終戦以来すでに四十九年、今日、国民のたゆみない努力により築き上げられた平和と繁栄の中にあつて、苦難にみちた往時をしのぶとき、深い感慨を禁じ得ません。

ここに、全国民とともに、戦陣に散り、戦禍にたおれた人々に対し、心から追悼の意を表し、世界の平和とわが国の一層の発展を祈ります。



(写真提供 東京新聞)



クェゼリン（クワジェリン）墓苑全景

清純な
プルメリヤ

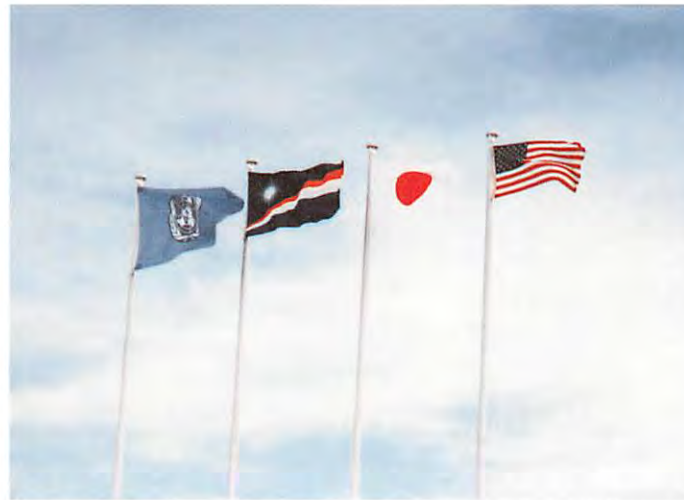


南東から見たクェゼリン本島
上の島はエニブージ島





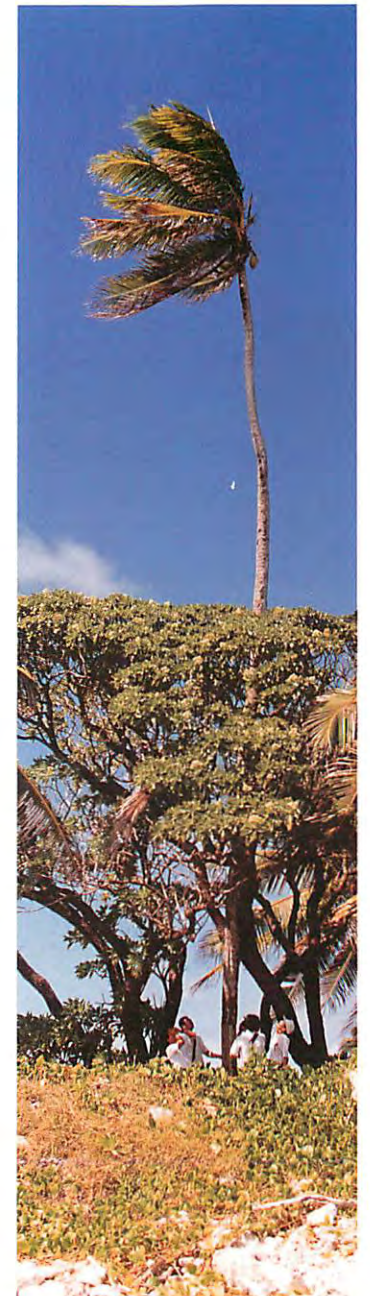
ケゼリン（クワジェリン）島の墓苑と忠魂慰霊碑
 戦闘終了後米軍が墓苑を造り、昭和43年に本会が慰霊碑を造って送り、
 現地の方々が組立てて下さった（38頁参照）



左から2本目は、マーシャル諸島共和国国旗、対角線のオレンジ部分は太陽の沈む西方ラリック列島を、白い部分は東方のラタック列島を表わす。白い星の線の4本は主要地区の数を、24本は自治体の数を表わす。左端の旗は国連旗



慰霊碑裏面



戦火に生き残った1本の椰子



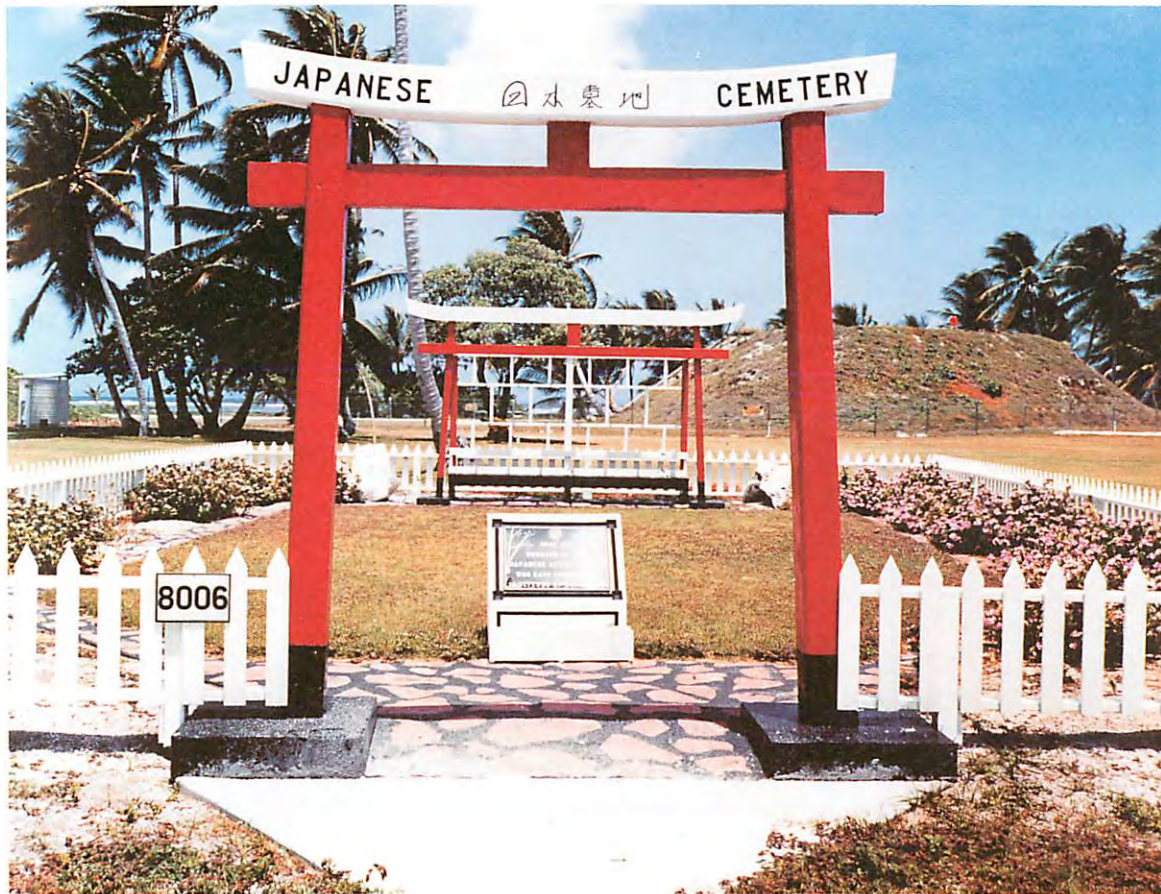
ルオット島の司令部跡と米軍の巨大なパラボリアンテナ



ルオット空港に、海底から引揚げられた遺品が展示されている



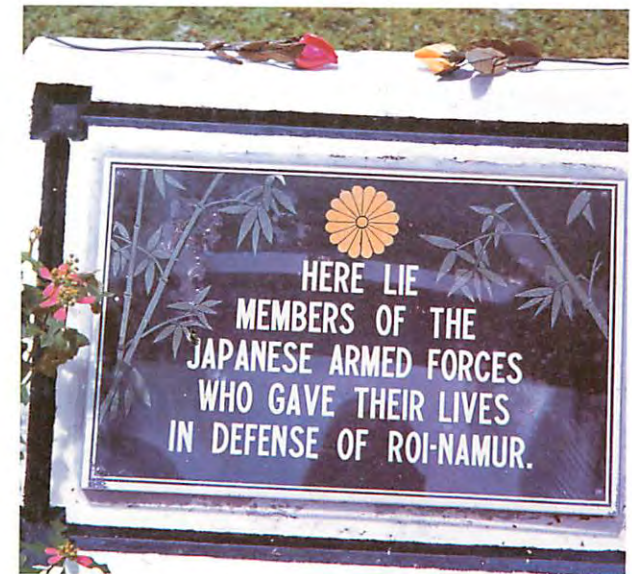
北西より見たルオット・ニムル（ロイ・ナムル）島
手前がルオット（ロイ）島、滑走路の先にニムル（ナムル）島が接している。その南東80km先にクェゼリン（クワ
ジェリン）島がある



ルオット（ロイ）島の墓苑と墓碑
 戦闘終了後米軍が墓苑と墓碑を造り、その後丁寧に管理している。墓碑の御紋章に注意
 (39頁参照)



ルオット（ロイ）島 戦闘指揮所跡



ルオット（ロイ）島の墓碑
 ロイ・ナムル島の防衛のために自らの生命を捧げた日本の勇士ここに眠る（訳文）



ブラウン（エニウェトック）環礁 エンチャビ島



ブラウン（エニウェトック）環礁 メリレン島



ブラウン環礁 ブラウン（エニウェトック）島



ブラウン（エニウェトック）環礁 ルーニット島の核実験廃棄物を埋込んだクレーター（上）と核実験跡（下）